

# 2013年6月期事業報告書

公益財団法人世界自然保護基金ジャパン

WWFジャパン

## 2013年6月期事業報告書

### 総括

リオサミットから20年目の節目の年となった昨年は、6月には同じリオで国連持続可能な開発会議（リオ+20）が開催されたほか、7月の第11回ラムサール条約会議（ルーマニア）、10月の生物多様性条約第11回締約国会議（CBD-COP11、於、インド）等、環境問題を巡る国際会議が目白押しでした。

こうした中、WWFではリオ+20の前にLiving Planet Report 2012を発表し、WWFジャパンでも12月に「日本のエコロジカル・フットプリント2012」を発表して、人間活動が地球環境に与える負荷軽減の必要性を訴えました。さらに、地球にちょうどいい生き方（One Planet Lifestyle：以下OPL）というメッセージを広報活動の中心に据え啓蒙活動を展開し、初めてACジャパンの支援先にも選定されたことに伴い、本年7月からテレビ、ラジオ等でWWFジャパンのOPLに関するメッセージが流れ始めました。

WWFネットワークとの連携としては、トラフィックとも協調しながら、ゾウ、サイ、トラの違法な国際取引を排除することを目的としたグローバルキャンペーンに協力したり、新たに、インドとブータンとの国境地帯に分散する国立公園をひとつの大きな保護区にするプロジェクトへの支援、およびカメルーンのロベケ国立公園での活動の支援を開始しております。

一方、資金調達面では、会費収入は堅調なもの、大震災以降法人からの寄付金や募金収入、パンダショップの売上が低調です。しかし幸いなことに、大口の絵画遺贈等があり、結果的には、収入予算を大幅に上回る収入実績となりました。

その他活動詳細につきましては、各室からの報告をご参照ください。

人員については、過去数年間ほとんど退職者がいなかったのに対し、昨年度はベテランのシニアを含め、一挙に6名の一般職員が退職しました。後任については、欠員の都度採用を行い、30歳前後の若手を中心に8名の一般職員を採用したことから、若返りが図られ、一般職員数は期末時点で51名となっています。

次に、期初に重点課題として取り上げた4つの事項について、以下概要をご報告申し上げます。

## 【期初に掲げた重点課題について】

### 1) 新体制のもとでの自然保護活動の充実

エネルギー担当者を新規採用し、気候変動・エネルギー分野での体制強化が図られました。しかし、森林担当およびボルネオ植林プロジェクト担当の計2名が退職し、さらに後者についてはプロジェクトの大きな遅延があり、室長およびグループリーダーが代行せざるを得ない状況となったため、森林関係は苦戦を強いられました。一方で、WWF ネットワークで進める世界の優先保全地域への支援は、ブータンとカメルーンの2ヵ所での支援が新たに始まりました。

### 2) 広報室の正式立ち上げによる広報力の底上げ

地球にちょうどいい生き方（OPL）というメッセージを広報活動の中心に据え、様々なメディアを通じた情報発信に注力したほか、一般消費者向けのパンフレットも作成しました。新規に支援を開始したインド・ブータン、およびカメルーンのレンジャーに応援メッセージを送るキャンペーンやTシャツコンテストなど、新しい試みにも大きな反響を得ることができました。また、これまで何度も応募しながら実現しなかった、ACジャパンの支援団体のひとつに選定されたことは嬉しいニュースです。

### 3) 資金調達力の一層の向上

個人サポーター拡大を目指す10万人プロジェクトは、新規採用の担当者が広報室等とも連携しながら進め、一定の成果を上げたものの、残念ながら期初目標には届きませんでした。法人寄付金も震災以降復調の兆しが見られず、パンダショップの業務見直しも緒についたばかりです。一方で、複数の大口遺産案件が見られ、今後も有望な資金源となり得ると判断されることから、レガシー・メジャーギフト・プログラムを今期より立ち上げることに致しました。

### 4) 人材育成・情報共有・職場環境改善による総合力の強化

上期に、予定通り2名の増員（10万人プロジェクト担当、エネルギー担当）を行ったほか、下期には今期に予定していた人事担当を前倒しで1名採用しました。しかし一方で、シニアスタッフ3名を含めた6名の退職者があり、採用に伴う人事・総務の作業負荷が増大しました。退職者の出た部署でも補充までの業務処理に期初には想定されなかった負荷がかかった結果、残念ながら、業務効率向上にまで手が回りませんでした。また、エコオフィスの検討は建築家等からの情報収集や先進オフィス物件の視察を行ったほか、手頃な空地や改築可能な中古物件等を現在物色中です。

## I. 2013年6月期 自然保護活動報告

WWF ジャパンは、2011年7月より始まる5年の中期計画で、世界で最も優先して取り組むべき重要な生態系の保全活動を推進し、日本の社会による消費や日本企業の取引による生態系への負荷を減らし持続可能な方法に変革する活動を推進しています。

### ▼2013年6月期の4つのハイライト

#### ■ハイライト1 アムールヒョウの個体数が目標の50頭に回復したことを調査で確認

WWF ジャパンはWWF ロシアと協力し、絶滅のおそれが高いアムールヒョウの個体数の回復に継続して極東ロシアの沿海州で取り組んできました。2013年冬に実施したフィールド調査により、少なくとも43から45頭の成獣と、4から5頭の幼獣の生息が確認されました。前回2007年の調査で確認されたのは27から34頭だったため、5年前の約1.5倍に増加していることが新たに分かりました。

一方、同じ調査地で今回の調査で20頭以上、5年前と比較すると2倍の数のシベリアトラ（アムールトラ）が、この地域に生息していることも分かりました。一般的には、トラとヒョウは、同じ肉食動物ではありますが、生息環境の好み異なるため、共存が可能だと考えられています。しかし、沿海州の南西部ではアカシカが減ってニホンジカが増え、イノシシの数が減少しているために、トラとヒョウの獲物がこれまで以上に重なるようになってしまっています。今後は、シベリアトラがアムールヒョウの生息数に影響を与えている可能性を十分に検討する必要があります。



(写真 左 アムールヒョウ、右アムールヒョウ個体数調査結果)

#### ■ハイライト2 日本のブリ養殖関係者とWWF ジャパンが、ASC (水産養殖管理協議会) 認証制度のブリ・スギ類の認証基準策定に積極的に貢献

水産養殖業を持続可能なものとするための認証制度「ASC (水産養殖管理協議会)」は、サケやアワビなど計12品目の養殖魚種について、順次認証基準の策定を進めています。ブリ・スギ類はその内の品目の一つで、日本は世界の中でもブリ・スギ類の養殖と消費がもつ

とも盛んな国です。

ブリ・スギ類の世界共通の認証基準は、「水産養殖管理検討会 (Aquaculture Dialogue)」で検討されますが、2012年に初めて日本で検討会を開催できるようWWFジャパンは支援しました。養殖業、流通業、研究者、NGO、政府関係者など多方面の関係者に参加を呼びかけ、約40名が公開の円卓会議で議論を行いました。また、検討会後も、ブリ・スギ類養殖のグローバル・スタンダード 基準案に対するパブリックコメント提出を日本語で行えるよう仕組みを作り、日本の関係者がより積極的に貢献できるよう支援を続けます。



(写真 左 検討会 右養殖ブリ)

### ■ハイライト3 自然エネルギー100%は「割に合う」ことを示した『脱炭素社会に向けたエネルギーシナリオ提案 <費用算定編>』を発表

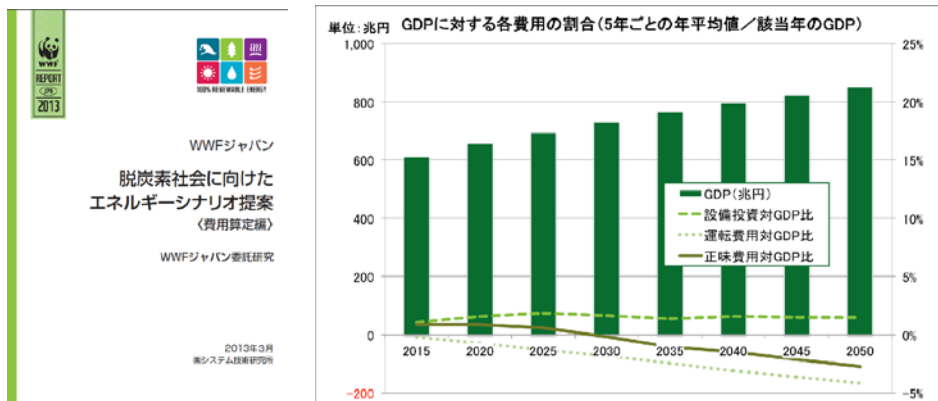
WWF ジャパンは、2050年までに日本社会が100%自然エネルギーにより支えられ、温暖化効果ガスの排出を劇的に削減する未来を目指し、その実現可能性を日本全体を対象とした大きな視点から検討した研究報告書「エネルギーシナリオ」を2011年から発表しています。

2013年3月には、このシナリオを達成するための費用を計算した『脱炭素社会に向けたエネルギーシナリオ提案 <費用算定編>』を発表しました。

試算の結果、省エネルギーおよび自然エネルギーに関して必要な追加的投資は、40年間の累計で442兆円となりますが、結果的に節約されるエネルギー費用が673兆円となるため、正味では232兆円が利益として返ってくることを明らかにできました。つまり、自然エネルギー100%は「割に合う」ことが示せました。また、442兆円の投資は、年間に直すと約11兆円であり、これは年間GDPの1.6%に相当します。データ不足から試算の対象に含めることができなかった対策・技術や、今後検討する電力系統増強費用がありますが、それらを含めたとしても、年間GDPの約2%程度であると推測できます。

この報告書により、「自然エネルギー100%」の実現にとっての最大の課題は「費用」ではないことが示せました。課題は、長期で見れば本来は絶対に「割に合う」はずである省エネルギー・自然エネルギー設備に対する投資を妨げている社会的・制度的な障害を取り除くことです。そのためには、短期的な視点ではなく、より長期的な視点からの脱炭素に向けた投資が行われるような政策や仕組みの導入を今後も働きかけます。

特に、これまでのエネルギーシナリオ報告書で示してきた内容を基に、政府において行われている「エネルギー基本計画」の改定作業において、再生可能エネルギー・省エネルギーについて明確で野心的な目標が取り入れられることを目指し、積極的な働きかけを継続していきます。



(写真3 左 報告書表紙 右 報告書に掲載した費用算定のまとめ )

#### ■ハイライト4 (トラフィック) :種の保存法が20年ぶりに改正!

ワシントン条約の国内施行に関連して、トラフィックは長年にわたり、国内法体制の検証を行い政府に提言を続けてきました。2013年6月期には、ついに「種の保存法改正」の動きが出てきたことを受け、環境省への提言や、国会議員への集中的なロビー活動などを実施しました。その成果として、国際希少種の国内流通管理において、罰則の大幅な強化や、インターネット広告の禁止など、トラフィックの提言に基づいた内容が盛り込まれ、国外からもこの日本の法改正に歓迎の声があがっています。

また、2013年3月にバンコクで開催された、第16回ワシントン条約締約国会議において、トラフィックの調査と提言に基づいて環境省がリュウキュウヤマガメの附属書掲載提案を提出しました。これは、日本政府が国内固有種について出した初めての提案として歓迎されるものです。



(写真 リュウキュウヤマガメ)

## ▼コンサベーションプラン 2016年6月期に基づいた全プロジェクト進捗状況報告

### ■ロシア極東地域の森林プロジェクト

(ハイライト1「アムールヒョウの個体数が目標の50頭に回復したことを調査で確認」を参照)

### ■スマトラ島エコリージョンの森林プロジェクト

インドネシアスマトラ島は、WWFが世界で最も優先して取り組むべき重要な生態系の一つに挙げている地域です。その中でもブキ・バリサン・セラタン国立公園は、絶滅のおそれが非常に高いスマトラサイ、スマトラゾウ、スマトラサイの生息する地域です。これまで森林減少によりゾウなど野生生物が国立公園周辺の集落に出没し、農作物や建物に被害を与え、その結果住民が野生生物を傷つけたり殺したりする衝突が発生して問題となっていました。WWFジャパンはWWFインドネシアと協力して、ゾウによるパトロール隊を発足させ、迅速に出没情報を把握する仕組みを作ってきました。住民との衝突が起こる前に、出没現場へ向かい、野生生物を誘導する活動を継続しています。その結果、2012年7月からの1年間の間、住民とゾウ双方の被害ゼロを達成することができました。

### ■森林生態系に配慮した責任ある林産品調達プロジェクト

(木材)

WWF中国と協力し、ロシアの極東地方で問題となっている違法伐採された広葉樹からの木材が、国境を越えて中国の工場に運び込まれ加工された上、日本を含む第3国に輸出されている実態を、中国で調査しました。ロシアと国境を接する中国黒竜江省ではほぼ全ての木材が通関するため、現地の専門家の協力を得て、現場の視察も行いました。今後は、日本でロシア産の広葉樹材を利用している企業に、その調査結果を基に問題のある取引の実態を伝えるとともに、今後取り組むべき対策の導入をセミナーなどの開催を通じて働きかける予定です。

(紙)

責任ある紙の調達をより多くの日本企業に促すため、WWFインドネシアと協力し、2012年に森林セミナー「森林保全と責任ある紙調達～企業が目指すべき姿」を開催しました。紙関連企業をはじめ、多様な企業から参加がありました。第一部では、WWFより、生産国、消費国それぞれの立場からWWFの森林保全活動とその現状の報告を行い、第二部では、紙の生産者(王子木材緑化株式会社)、供給者(富士ゼロックス株式会社)、消費者(ソニー株式会社)という異なる立場の企業がそれぞれの「責任ある調達」の実践を発表しました。最後にWWFと実践発表を行った企業を交えたパネルディスカッションを行い、現状の課題やこれからも紙を使い続けていくために企業やNGOがすべきことについて、発表と議論を行ないました。

(パーム油)

パーム油が森林や生物多様性に与える影響を大きく減らすため、WWFはRSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)の取り組みに参加するよう広く日本企業に働きかけています。RSPO日本企業メンバーは26社にまで増加し、それぞれ認証油導入に向け取り組みを進めています。また、キリングroupが、WWFジャパンなどと協働のもと、紙製品やパーム油といった同社の事業に関連する自然資源に由来する製品について「持続可能な生物資源の調達ガイドライン」と行動計画を定め、公表しました。環境や社会に配慮した企業として、複数の製品について「責任ある調達」を行なうことを定めたガイドラインは、WWFの推進する自然資源の持続可能な利用を社会全体で実践してゆく上でも、大きな一歩となります。

一方、パーム油の問題解決には一般消費者にこの問題が広く知られ、その結果消費行動が変わっていくことも欠かせません。そのため、この問題を分かりやすく解説した冊子『使ってもいいの？暮らしの中のパーム油』を作成し、配布を開始しました。

## ■途上国における森林減少・劣化からの排出量削減(REDD)プロジェクト

WWFジャパンのREDDへの取り組みは、森林とその生物多様性に十分配慮しかつ温室効果ガスの実質削減となる、WWFが求める高い水準の政策が導入されるよう日本の政府・関係機関に働きかける政策面での取り組みと、スマトラ島やボルネオ島の現場で、REDDの取り組みが実践できるよう支援する現場での取り組みがあります。

政策面では、森林総合研究所REDD研究開発センターのセミナーや検討会に参加し、提言を行いました。フィールドプロジェクトでは、ボルネオ島インドネシア領の東カリマンタン州のクタイバラ県で京都大学の協力を得て、森林の植生調査および哺乳類の生態調査を開始しました。これらの調査により、REDDプロジェクト自身が生物多様性に悪影響がないことをモニタリングする仕組みの構築を目指しています。

## ■黄海エコリージョンプロジェクト

黄海エコリージョンでは、WWFジャパンとWWF中国と韓国のKIOST(韓国海洋科学技術院)とが協力し、黄海に関わる日中韓の地域関係国で海洋の生物多様性保全を地域の多様な関係者の参加を得ながら促進する取り組みを行っています。

2013年には、中国遼寧省海洋漁業庁に対し、遼寧省丹東市の鴨緑江河口域に広がる干潟において、漁業・渡り鳥・底生生物のつながりを考慮した持続可能な利用と保全を求める提言を行ないました。

この提言は、プロジェクトの一環として、2010年1月から3年間にわたり実施してきた、鴨緑江河口域での現地調査の結果を踏まえて行なわれたものです。提言書は、鴨緑江河口域をはじめとした黄海の生態環境と海洋生物資源の保全、持続可能な水産養殖業の導入、適切な法令、規約の制定を求めています。

WWFからの提言に対して、遼寧省海洋漁業庁は、経済発展と生態環境の保全の調和を意識した今回の調査活動の成果を高く評価すると共に、これらの科学的知見と生態系ベー



ス管理の考え方を、鴨緑江河口干潟以外の黄海全域に広く共有していくことが大切であると述べました。

一方、韓国では、地域住民と地方政府が干潟の持続的利用と保全を協働で進めるモデル事業を全羅南道ムアン郡沿岸で実施してきました。干潟での市民モニタリング調査、環境教育プログラム開発、地域活性化エコツアープログラムを包括的に進めていることが評価され、2012年5月には、地元ムアン郡（海洋水産課）が大統領表彰を受けました。

また2012年に中国の上海市で、「黄海エコリージョン支援プロジェクト・エクステンジフォーラム」を開催しました。中国、韓国から、地方政府、研究者、市民グループなど、30名以上の保全関係者が参加し、黄海沿岸域をより持続可能な形で利用し、効果的に保全していくための取り組みについて、成果を発表し、意見を交換しました。

## ■南西諸島エコリージョンプロジェクト

南西諸島エコリージョンでは、WWFジャパンとして南西諸島の生態系が持つ世界的な生物多様性上の重要性に注目し、国内的な重点取り組みと位置付け保全活動を行っています。フィールドでは白保のサンゴ礁と久米島のサンゴ礁で、地域の住民や行政など多様な関係者と連携して取り組み、一方より広域で生物多様性上の優先地域の保全を推進するため、県や国の行政に生物多様性保全や沿岸域管理を一層向上させるよう政策提言を行っています。

石垣島白保のサンゴ礁の保全については、白保地区で地域の組織基盤が強化され、白保サンゴ礁の保全とその持続可能な利用による地域の活性化が地元主体で実施できる体制の確立を目指して、NPO法人の設立と活動計画の作成に取り組みました。その結果、2013年に沖縄県のNPO法人の認定を受けることができました。また、白保（しらほ）地域のWWFサンゴ礁保護センター「しらほサンゴ村」で開かれている地元物産市「白保日曜日」が開発した『カナッぱ弁当』が、南ぬ島石垣空港開港記念「八重山弁当グランプリ」で金賞を受賞しました。白保地域では、天恵のサンゴ礁にとって脅威である"赤土"の流出を食い止めるために、畑のまわりに糸バショウや月桃（げっとう）を植える活動を、地域住民が中心となっておこなっています。『カナッぱ弁当』は、この糸バショウや月桃の葉を皿として使っていることが大きな特徴で、サンゴ礁保全と伝統食文化の継承と地域経済の活性化の一石三鳥を実現する可能性を秘めた商品が広く認められました。

久米島のサンゴ礁を保全する取り組みでは、さまざまな分野の研究者の方々、そして地元の人たちと共同で行ってきた活動が3年の満期を迎えました。そこで2012年に沖縄県の久米島にてプロジェクトの最終報告会を行ないました。地元の儀間の集落の久米島小学校にて環境学習授業を実施し、また、久米島町役場への報告会を実施するとともに、島の観光協会のホールでも広く島民の方むけの報告会を行ないました。2013年には、従来のプロジェクトを引き継ぐ形で、地元の保全団体「一般社団法人久米島の海を守る会」のメンバーの方々が久米島町と「赤土流出防止対策推進の協力協定書」を締結し、連携しながら活動を継続実施することになりました。

一方、白保地区や久米島地区以外にも沖縄県と鹿児島県に広がる南西諸島の「生物多様性優先地域」の保全を推進するため、県単位の広域生物多様性保全の政策を推進するよう働きかけました。特に沖縄県庁に対しては、沖縄県生物多様性地域戦略に「生物多様性優先地域」を特に保全の重点地域と位置付けることや、地域で保全の担い手となるコーディネーターの育成に取り組むことなどを提言し、その趣旨が戦略案に反映されました。

## ■水産プロジェクト

水産プロジェクトでは、マグロ類やサケ類など世界的に重要な魚種の資源管理が科学的根拠に基づき持続可能で実効的な方法で行われるよう日本の行政や国際機関に働きかけるとともに、日本の企業が責任ある水産物の調達方針を策定し実施できるように協働を推進しています。また、東日本大震災と津波により地域の水産業にも自然環境にも大きな被害を受けた地域が、自然環境に配慮しつつ水産業の復興が持続可能な漁業の推進を通じて実現できるよう「暮らしと自然の復興プロジェクト」を通じて支援しています。

マグロ類の資源管理については、フィリピンのマニラで 2012 年に開催された WCPFC（中西部太平洋まぐろ類委員会）第 9 回年次会合に参加し、特に危機的な資源の減少が懸念されているマグロの一種メバチの資源保護のために有効な措置を取るよう働きかけました。しかし採択はされず、周辺地域で漁業に携わる人々の暮らしを危うくする事態が生じつつあります。今後も適正な措置を採択するよう継続して働きかけていきます。

「養殖業の課題と認証制度 ASC」をテーマとし、2012 年に水産セミナーを開催しました。水産物を扱う企業の方々を対象に、持続可能な養殖水産物の認証制度「ASC」を説明するとともに、日本の消費者とも縁の深いチリおよびインドネシアでの養殖業の現状を紹介しました。（ブリ・スギ類の ASC 基準策定推進についてはハイライト 2 を参照）

「暮らしと自然の復興プロジェクト」では、モデル地域の一つ宮城県の志津川湾で、県漁協志津川支所戸倉出張所の養殖業者に依頼し、水産物の汚染を検査するためサンプリング調査を行ないました。東日本震災は、地震と津波の被害だけでなく、福島第一原子力発電所の大事故をも誘発させました。原発から流出（放出）拡散した放射性物質により、環境や農林水産物の汚染が今も懸念されています。全国的な関心事となっているのは放射性物質汚染ですが、一方であまり話題に上らない別の海洋汚染問題も懸念されています。それは、津波によって工場等から海に流出した化学物質や、廃棄物の焼却処理等によって発生する化学物質、大量のがれきから溶け出す化学物質が引き起こす影響です。これらの化学物質は環境中に長く滞留し、食物連鎖を通じて魚や海藻類の内部で生物濃縮され、それを食べる人の健康被害にもつながりかねません。採集したサンプルは、愛媛大学の沿岸環境研究センターで解析する予定です。もう一つのモデル地区福島県相馬市松川浦では、自然環境、海洋汚染、漁業経済など各種調査を行なうとともに、地域の漁業関係者の方々とも話し合いを重ねてきました。2013 年には環境省復興エコツアー推進モデル事業の検討会でも地元関係者に内容を紹介し、松川浦の震災後の状況と課題、さらには復興に向けた提案を行ないました。

## ■気候変動・エネルギープロジェクト

気候変動・エネルギープロジェクトは、地球温暖化を最小限に抑え生態系と生物多様性と社会への影響をより少なくするため、国連交渉への参加、日本国内での対策推進、日本企業による先進的自主的取り組みの働きかけ、メディア等を通じ広く一般に温暖化の危機とすでに起こりつつある被害を伝え、日本社会が 100%自然エネルギーにより必要なエネルギーを賄う未来を体現する実践例を地域で起こす活動を行っています。

2012年12月カタールのドーハで開催された国連気候変動会議（COP18・COP/MOP8）に参加しました。会議は「ドーハ・クライメート・ゲートウェイ」と呼ばれる一連の決定をパッケージとして採択し閉幕しました。今回の会議は、2015年に予定されている新しい国際枠組み合意へ向けての節目となる会議でしたが、合意の中身は決して十分なものではありませんでした。日本も含め、各国が国内での議論を尽くして準備をし、次回以降の会議で交渉を加速していけるかが課題となっています。特に、日本は震災以降、見直すと宣言している 2020 年目標についての結論が出ていないことが、大きな課題となっており、今後必要となる 2030 年目標と共に、WWF ジャパンは野心的な目標の策定を働き掛けます。

国内対策では、2011年秋から続けられてきた政府「エネルギー・環境会議」が最終的な結論を出すことを見越して、エネルギー環境会議に対しWWFの意見書を送付しました。同時に、2012年6月に政府が発表した「エネルギー選択枝」をもとに真の「国民的議論」が行われるよう、一般市民がより容易に意見を提出できるように工夫したウェブページを立ち上げました。全国から8万を超えるパブリックコメントが政府に対して一般から寄せられましたが、そのうちWWFのウェブページを経由して政府のパブリックコメントウェブページまでアクセスした人が約1万人にも上りました。

政府のエネルギー・環境会議は 2012 年 9 月「革新的エネルギー・環境戦略」を決定しました。中には「2030年代に原発稼働をゼロとする」という方向性が明示されました。しかしこれは、原発の「40年で廃炉」と整合せず、ほかにも矛盾点がいくつも残されています。何より、省エネや自然エネルギーの目標が不十分な上、石炭を重視するなど、地球温暖化対策の側面が、大きく後退の様相を見せています。WWF ジャパンは、これについて懸念を強く表明する声明を発表しました。その後 2012 年 12 月に行われた衆議院選挙により政権が交代し、残念ながら政府のエネルギー基本計画と温暖化対策は白紙に戻され、ゼロからの検討が新たにされるといふ大きな遅延を生じさせています。

日本企業による先進的な取り組みでは、2013年6月に再生可能な自然エネルギーの環境ラベル「WindMade（ウィンドメイド）」の認定を、日本企業が初めて取得しました。WindMade は、風力エネルギーを積極的に利用している企業や製品などを認定する世界初の環境ラベル。認定を取得したのは、愛媛県今治市の池内タオル株式会社です。WWF は池内タオルに申請を勧め、手続きの支援を行いました。WWF は、この WindMade 認定の取得を、企業が取り組む再生可能エネルギーの拡大を加速するものとして歓迎しています。

## ■ WWF 優先地域・象徴種プロジェクト

1961 年は、乱獲が深刻になっていたアフリカの野生動物保護のため、WWF 設立された年です。それから 50 年、自然保護活動も日本人の環境負荷も、グローバル化とともに拡大しました。世界の中の日本を意識して、WWF ネットワークの優先課題にも参画していくため、現在、WWF ジャパンでは 7 か所指定されている世界の優先保全地域のうち、以下の 3 か所で、現地 WWF の生物多様性保全活動を支援しています。

### < 東ヒマラヤ支援プロジェクト >

2012 年 10 月に、ブータン南部のロイヤル・マナス国立公園と周辺の保護区、それにインド側を含む多国間マナス保護区構想 (Transboundary Manas Conservation Area ; TraMCA) に対し、3 年間計 4500 万円の支援を行う覚書を、WWF ブータンと交わしました。この広域保全構想に、直接支援を開始したのは、現在のところ WWF ジャパンを通じた日本からの支援のみです。

この覚書に基づき、WWF ブータンは政府と協力し、生物多様性調査のための国立公園スタッフのトレーニングや、密猟取り締まりのためのパトロール隊の整備、モニターする拠点の建設などを開始しました。

具体的には、TraMCA のブータン側に含まれる、西からピブスー野生動物保護区、ロイヤルマナス国立公園、そしてカーリング野生動物保護区で保護管理に携わる計 25 人のレンジャーたちが、SMART パトローリングと呼ばれる、GIS を駆使した新世代の生物多様性モニタリング手法を、3 月から 4 月の 9 日間、フィールドとコンピューター操作を交えて学びました。

さらには、東に分布するアジアゾウの重要な生息地、カーリングのミンジョンゲンにある、紛争中でボロボロになっていたガードポスト (レンジャー駐在所) を修復し、パトロール拠点として活用が可能になりました。また 3 台のオフロードバイクを購入したことで、片道 2 日半かかったパトロールが、数時間でできるようになりました。

ロイヤルマナス、ピブスーの各保護区でも、ガードポストの修復、建設が予定通り進められています。覚書の締結時期の遅れにより、活動の開始も半年遅れでしたが、既に 1 年分を前倒して達成する勢いで、現場のスタッフたちは頑張っています。

### < 中部アフリカ・コンゴ盆地支援プロジェクト >

WWF ジャパンは、WWF ネットワークが今期最優先で取り組んだ「違法取引根絶・グローバル・キャンペーン」へ、資金的な協力を行いました。

近年急増する、高度に武装化された国際密猟団に対抗するため、WWF と TRAFFIC が協働し、2013 年 3 月にタイで開かれた第 16 回ワシントン条約締約国会議に向け、ゾウ、サイ、トラの密猟と違法取引反対の署名活動を展開。関係する国々に取締り・罰則の強化を求めました。この結果、開催国タイのインラック首相が、それまで合法であった国内の象牙取引を休止するよう、法制度の改正を含む手続きを進めることを約束しました。

また一連のキャンペーンにより、G7 や ASEAN といった主要国会議や、さらにはアメリカのオバマ大統領が、事態の深刻さを認識し、国際違法取引防止に向けた対策強化を検討しています。大規模密猟の背景には、高度経済成長で豊かになったアジアの国々で、漢方薬としての犀角、あるいは高級調度品としての象牙が人気を集め、需要が急増していることもあります。この消費の抑制に対しても、中国やタイ、ベトナムといった国々へのロビー活動を展開しました。

これらの動きにより、野生生物の違法取引が、国際的な犯罪として認識されはじめました。この流れを現場の活動に繋ぎ、厳しい取締りと、再発防止に効果のある厳罰が実行され、上記3種が絶滅を免れることをめざします。

さらに WWF ジャパンでは、上記のキャンペーンと連動し、中部アフリカのマルミミゾウを密猟から守るため、カメルーン南東部・ロベケ国立公園のプロジェクトへの支援を開始しました。マルミミゾウは「最高級の象牙」を持つといわれ、重要な生息地であるロベケでも、近年密猟が深刻化しています。1990年代終わりの内戦の影響が今も尾を引いている、コンゴ共和国との国境地帯にあるためです。戦時中のカラシニコフ自動小銃が、今でも現地では民兵の手に残り、それが密猟に使われているのです。

ロベケ国立公園で展開されるのは、密猟、その他の違法行為の取り締まり強化です。特に、森に詳しいバカ・ピグミー族をプロジェクトで雇い上げ、密猟者に雇われて奥地での密猟に加担する代わりに、生物多様性モニタリングやエコツアーリズムのガイドとして要請する、などは地道ですが、地域コミュニティが将来に渡って持続的に熱帯ジャングルを利用していく上で、欠かせない活動です。

また、WWF ジャパンからの資金的支援で、2009年来ストップしていた、公園内7か所にある水草スワンプでの定点観察が再開され、ロベケの生物多様性の現状モニタリングが可能になりました。

密猟を防ぐには、取り締まり強化に加え、エコツアーリズムの振興によって人々の目が行きとどくようにすることも有効です。このためロベケでは、ゴリラの人づけによる観光客の誘致を将来的に計画しており、WWF ジャパンからは専門知識のあるスタッフを派遣し、技術的な協力も開始しました。

## ■ボルネオ島・森林再生プロジェクト

ボルネオ島は、WWF が世界で最も優先して保全活動に 取り組むべき重要な生態系の一つに挙げている地域です。その中でもマレーシア・サバ州のセガマ・キナバタンガン景観区にあるウル・セガマ＝マルア森林保護区は、サバ州のオランウータン個体群の中心的生息地です。一方この地区はこれまでの森林伐採により、森林が消失したり劣化が進んだりしていました。そのため、在来の樹種からオランウータンの食物となる樹種 や本来多く存在した樹種を選定の上、植樹し管理することにより、計画的に森林回復をすすめています。その結果、オランウータンの個体数の維持回復に効果を発揮することを目指しています。2013年6月までには、当初計画した967ヘクタールに対して植林が完了した面積は768.

56 ヘクタールで植林完了率は約 79%、維持管理の進捗率は約 45%です。

### ■日本のクマプロジェクト

このプロジェクトは、日本の野生生物の中でクマを対象とし、中山間地で過疎化が進むことが主な原因の一つで野生生物と地域住民の生活と間で軋轢が生じている課題に着目し、実現可能な対策の実践を支援する取り組みと、日本の中で最も絶滅のおそれが高いツキノワグマの生息実態をより詳細に解明し、絶滅を回避するための新たな具体策を推進する取り組みを行っています。

島根県の回復しつつある地域個体群のクマと人との軋轢を緩和する活動では、対策が地域の住民と行政と連携して実践できるモデル地区を選定するため、まず各地域の被害と対策の現況を確認するとともに、候補地区の住民の協力を得て、クマを始めとしサルやイノシシなどによる被害に対する住民意識調査を行いました。この結果を基に、今後モデル地区を 2013 年には決定し、対策の実践を開始する予定です。

四国（徳島・高知）の絶滅のおそれのあるクマの地域個体群を保全する活動では、クマの行動圏をより詳細に把握する目的で調達した GPS 首輪を 3 頭のツキノワグマに装着することができました。これは GPS（全地球測位システム）を使って、毎時間、クマがいる地理情報を蓄積していきます。蓄積された情報は数カ月に一度、取り出すことができます。今後 2 年間にわたり、クマの行動を追跡する調査を行なっていきます。

### ■日本のエコロジカルフットプリントプロジェクト

このプロジェクトは、地球 1 個分の環境の容量を大幅に超え、自然資源を消費し CO2 を排出しながら生活する日本社会の実態を、データを元にエコロジカル・フットプリントという指標を用いて最新状態を明らかにするとともに、地方自治体や企業がフットプリントという視点を取り入れて、現在の組織の活動のあり方を見直し、それぞれのフットプリントを削減する取り組みを推進することを目指しています。

2012 年にグローバル・フットプリント・ネットワーク (GFN) と共同作成した「日本のエコロジカル・フットプリント報告書 2012 (Japan Ecological Footprint Report 2012)」を発表しました。この報告では特に「食」を中心に分析を行ない、世界全体が日本と同じ水準の食生活をした場合、地球 1.6 個分の資源が必要となることなどを指摘しました。報告書は、日本の長所を活かした改善の可能性についても指摘しています。たとえば、大きな課題である「食フットプリント」については、食品廃棄を無くせば、25%削減ができることや、各地方自治体の環境政策のなかにエコロジカル・フットプリントを指標として取り入れることで、それぞれの地域に合った、効果的な対策が可能になることです。今後はおもに地方自治体を対象とし、働きかけていく計画です。

### ■過剰利用種(Footprint Impacted Species)プロジェクト(トラフィック)

#### <薬用植物プログラム>

日本の薬用植物利用におけるフェアワイルド基準\*1 の導入に向けて、日本企業へのヒア

リング、国内関係省庁への情報提供、生物多様性条約締約国会議(CBD CoP11)でのプロモーションなどを続けてきましたが、2013年6月期の大きな成果として、日本の「生物多様性国家戦略」において、推奨する認証制度として初めてフェアワイルド認証が明記されました。

\*1：フェアワイルド基準とは、野生の薬用・アロマティック植物の持続可能な採集と利用を可能とする基準で、生態学的な生産能力と、採集者への適性な利益還元を考慮して開発されたもの。

#### <水産物プログラム>

IUU 漁業\*2の削減、排除に向けて水産種のトレーサビリティ確保を推進するため、調査を続けており、2013年6月期には、特に日本のマーケットにおけるサケのトレーサビリティについての調査結果をレポートにまとめてWWFに提示しました。また、ウナギの国際取引動向について、トラフィックインターナショナルと協働で調査を実施し、報告書としてまとめ、各国政府に配布しました。

\*2：IUU 漁業とは、Illegal, Unreported, Unregulated: (違法、無報告、無規制)の漁業の略。

#### <重点種プログラム>

アジアでの需要の急増によって密猟、違法取引が増大している象牙や犀角について、『違法野生生物取引撲滅キャンペーン』をWWFと協働で実施し、こうしたキャンペーンで集められた資金で、ベトナムでの犀角需要削減のための啓蒙活動を始めました。また、象牙や犀角の合法市場がある日本の国内取引状況を監視し、政府への提言を継続しています。

#### <法体制整備プログラム> (ハイライトにあり)

ワシントン条約の施行支援のため国内の法体制整備を点検し、国際希少種の国内流通管理における『種の保存法』の改正ポイントを提言してきた結果、2013年6月期には20年ぶりに種の保存法が改正され、大幅な罰則の強化などが盛り込まれました。

#### <ワシントン条約施行支援>

途上国におけるワシントン条約施行の支援のため、環境省との協働によってミャンマーで省庁関係者を対象に、種の識別能力向上研修を実施しました。ヤンゴンとマンダレーの2か所で実施した研修には、計70名近い自然保護に関わる省庁関係者が参加し、研修後のアンケートでは、参加者全員が、「今後の業務に役に立つ知識が得られた」との評価をしていました。ミャンマーでワシントン条約施行に関わるこのような研修が実施されたのは初めてのことであり、ミャンマー政府、またワシントン条約事務局の双方からその意義を認められました。

#### <<英略語>>

NI = ネットワーク・イニシアティブ

(WWF ネットワークが指定したグローバル重点プログラム)

APGS = アジア太平洋地域成長戦略

APPLE = 人材育成システム構築プロジェクト

S F I = Smart Fishing Initiative

(持続可能な漁業の実現を目指すグローバルプログラム)

W H O = 世界保健機関

A S C = 水産養殖管理協議会

F S C = 森林管理協議会

R S P O = 持続可能なパーム油のための円卓会議

R E D D = 途上国における森林減少・劣化からの排出量削減

R F M O = 地域漁業管理機関

Footprint Impacted Species = 過剰利用種

C o C 認証 = 加工・流通管理の認証



## Ⅱ. 2013年6月期 サポーター事業室活動報告

### <ハイライト>

1. 絵画による大口遺贈案件が正式に成立。売却も完了し、約950,000千円が今期の収入となりました。その他にも今期は個人からの大口寄付に恵まれました。
2. 個人会費収入は、10万人プロジェクトによる獲得と、維持プロジェクトによる高い継続率の維持によって、堅調に推移しました。
3. 企業とのエンゲージメントについて、透明性と一貫性の確保を目的とした情報公開と評価 (due diligence) のガイドラインがネットワーク主体で策定され、対応中です。
4. 近年売上減少傾向にあるパンダショップについて、再建のための全局的な検討が行われ、事業目的の再確認と、売上回復のための基本方針が共有されました。

### 1. 個人グループ

#### <概況>

今期、個人関係収入の対予算達成状況は、会費収入102%、寄付収入110%、遺産寄付収入520%と、たいへん好調でした。

内容的にみると、会費収入については、確実な維持業務と新規開拓（10万人プロジェクト）が堅調な成果を上げている結果です。一方、寄付収入については、個人からの大口指定寄付を除くと、対予算83%という状況で、決して順調とは言えない状況です。遺産寄付については、絵画寄付を含めて4件の大口寄付が発生し、大幅達成となりました。

#### <主な活動状況>

##### (1) 維持プロジェクト

2013.06期平均継続率：93.4%（前期：92.0%、前々期（同時期12ヶ月平均）：93.8%）

前期、クレジットカード決済システムの導入の影響で落ち込んだ継続率は、ほぼ以前の93%台に回復しました。

サポーターに支援を実感してもらい、活動を身近に感じてもらうために、今期から新たに始めた3つの施策、①サポーター専用メールによるタイムリーな活動情報の発信、②face to faceの会員の集い「わいるどアカデミー+（ぷらす）」、③プロジェクト関連フィールドへの会員ツアー、については、以下の通り実施しました。また、その効果を測るための会報同封方式の定期アンケートを実施しました。

##### ① サポーター専用メール

送信実績：

- ・7月 第1回「わいるどアカデミー+（ぷらす）」のご案内

- ・ 8月 環境温暖化に関するトークショーのご案内（関東首都圏在住会員限定）
- ・ 8月 映画配給会社協賛による会員限定試写会ご招待のご案内（関東首都圏在住会員限定）
- ・ 9月 ブータン・プロジェクトのドネーションアピール中間結果報告と販促
- ・ 10月 第2回「わいるどアカデミー+（ぷらす）」のご案内
- ・ 11月 クマ・プロジェクトのドネーションアピール中間結果報告と販促
- ・ 12月 サイの取引に関する国際協定締結のニュースと「カード・フォー・レンジャー」のご案内
- ・ 2月 クマセミナーのご案内
- ・ 3月 アースアワー参加の呼びかけ
- ・ 4月 アムールヒョウ個体数 1.5 倍のニュース
- ・ 5月 会員ツアー（南三陸）のご案内
- ・ 6月 四国で撮影に成功した親子クマの画像

## ② 会員の集い「わいるどアカデミー+（ぷらす）」

- ・ 第1回（8月23日）：テーマ「100%自然エネルギーの生活を実現するには」（参加者：38名）
- ・ 第2回（11月29日）：テーマ「幸せの国ブータンで、WWFが守ってゆくもの ～ブータン・プロジェクト紹介～」 東ヒマラヤGI担当シュバッシュ・ロハニ氏（WWF US在籍）来日に合わせて実施（参加者：30名）



### <緊急ミニセミナー>

2013年2月28日、クマ保全プロジェクトのパートナーである島根県の担当者を招いて、緊急ミニセミナー「ツキノワグマ in 島根 ～保護管理の最前線～」を開催、会員を中心に17名の参加がありました。島根県のクマの現状や住民との衝突の問題について、地元の方から直接お話を聞く貴重な機会となりました。

### ③ 会員ツアー

4月27～28日の日程で、震災プロジェクトサイトへの会員向けボランティアツアー「南三陸町復興応援ツアー」を実施。定員15名のところ19名の参加がありました。養殖施設の見学や、漁協・生産者のみなさんとの交流など通して、参加者満足度の高いツアーとなりました。



### (2) 販促プロジェクト

既存サポーターに対する寄付願い(ドネーションアピール)が主な活動内容になります。従来の年2回(夏・冬)の単独DMによる実施に加えて、今期より、会報同封型の中間アピール(通称:「ぷちドネアピ」)を定例化(春・秋の年2回)し、寄付収入の増加を図りました。また、訴求テーマとしては、ネットワークが優先的に取り組む保全地域(GI: Global Initiative)への支援としてブータンのトラムカ保護区の実践や、グローバルキャンペーンに連動した違法野生生物取引の撲滅、また、サポーターの関心の強い日本のクマのプロジェクトや震災復興支援プロジェクトを取り上げました。

違法野生生物取引をテーマとして冬のドネーションアピールについては、活動のわかりやすさやプレミアムを工夫したことなどにより、好調な結果となりました。また、クマ保全プロジェクトについては、会報同封型のアピールとしては好調な結果となり、サポーターの関心の高さがうかがえます。

## ドネーションアピールの結果

時期 (実施形態)	テーマ	2013.06 期のみ		2013.04 期(参考.8/5 現在)		キャンペーン合計		平均支援額
		件数	支援金額	件数	支援金額	件数	支援金額	
2012 年夏 (単独 DM)	フーン保護区 支援	1,974	11,606,961			3,641	19,236,394	5,283
2012 年秋 (会報同封型)	日本のクマ	1,278	6,070,615	31	121,500	1,309	6,192,115	4,730
2012 年冬 (単独 DM)	違法取引	6,158	32,153,784	66	365,960	6,224	32,519,744	5,225
2013 年春 (会報同封型)	南三陸町復 興支援	302	1,684,318	77	539,042	379	2,223,360	5,866
2013 年夏 (単独 DM)	スマトラの森 (継続中)	1,903	8,311,812	1,354	6,493,197	3,257	14,805,009	4,546

### (3) 開拓プロジェクト (10 万人プロジェクト)

新規サポーターの獲得を目的として、今期も、雑誌同梱などの紙媒体と、オンラインバナー広告などのウェブ媒体を中心に、積極的なプロモーションを展開しました。今期は、ネットワークのグローバルキャンペーンである違法野生生物取引をテーマにしたキャンペーンを中心に 55,000 千円を投資し、期中の新入会員数は 5,218 人でした（投資媒体と直接的な関連性が測れない新入会も含む。前期は 4,919 人。）。

人と自然が調和して生きられる未来を目指して。WWF は世界約 100 カ国で活動している環境保全団体です。

**STOP! ILLEGAL WILDLIFE TRADE**  
—— 野生生物の違法取引 根絶キャンペーン ——

**野生生物を守ろう**  
今、世界の各地で野生生物の密猟が深刻化しています。とりわけサイ、トラ、ゾウは、その角や牙を狙った大規模な密猟の犠牲になっており、違法な取引も多発しています。危機にある野生生物を守り、人が多様な生命と共存できる地球の未来を目指すために、密猟と違法取引をくい止める WWF の取り組みをご支援ください。

7月31日まで!  
クリアファイルを  
プレゼント!  
詳しくはコチラ

#### (4) レガシー/メジャードナー・プロジェクト

今期は、個人からの大口の絵画による遺贈案件が成立し、すべての絵画の売却も完了したため、遺産寄付収入が大幅な達成となりました。

また、その他にも遺贈案件が3件と、個人からの大口指定寄付案件が1件ありました。

来期からは、このような遺産寄付ならびに個人からの大口寄付の獲得と受け入れ体制整備を目的としたプロジェクトを正式に立ち上げることとし、計画を策定しました。

## 2. 法人・募金グループ

### <概況>

リーマンショック後の長引く不況と震災の影響により、法人・募金関係は、依然、厳しい状況です。大口の継続案件のいくつかが今期契約終了となる中で、なかなか大口の新規案件が獲得できない状況にあります。また、上期はスタッフの異動・退職に伴う人手不足により、積極的な営業活動が行えない状況が続きましたが、1月に職員が補充され、体制は改善されつつあります。景気回復の兆しが見える中、徐々に企業からの新規の問い合わせも回復傾向にあります。一方、ネットワークにおけるCE (Corporate Engagement) の見直しが進んでおり、より透明で戦略的な企業とのパートナーシップ構築を目指して、企業評価ガイドラインの作成や、ターゲット戦略策定、外部公開のためのデータベース作成などの作業負荷が多くなりつつあります。

### <主な活動状況>

#### (1) 法人会費プロジェクト

法人会費収入に関しては、退会数は一時期より減少したものの完全には歯止めはかからず、新規の獲得が芳しくなかったことにより、対予算 87%の未達となりました。

#### <期中の状況>

- 新・再入会：6社（6口）、支払停止：14社（14口）、口数変更1社（5→2.5口）
- 2013年6月末現在の有効法人会員数：169社（231.5口）

活動としては、企業向けニュースレターが主担当者退職の影響で発行が遅れたものの、広報室を含めた新しい体制で、1月より配信を再開しました（隔月発行）。また、自然保護室が行った各種セミナーや広報室イベントなどの案内を通して、会員法人への情報サービスと、参加機会の提供を図りました。

#### (2) 法人寄付（国際案件を含む）プロジェクト

今期1年間に寄付・募金の入金があった企業数は、422社と、前期の402社に比べて若干回復したものの、収入予算的には、震災前の規模への回復は達成できず、対予算 63%と大

幅未達となりました。

＜主な大口企業寄付案件＞

単位：円

パナソニック株式会社	21,693,000	パナソニック・黄海エコリージョン 指定法人寄付
住友生命保険相互会社	10,000,000	南西プロジェクト 指定法人寄付
伊藤忠商事株式会社及び伊藤忠グループ会社 (16社)	10,000,000	NI ハートオブボルネオ 指定法人寄付
株式会社エポスカード	7,294,500	一般法人寄付
株式会社エコリカ	6,371,152	一般法人寄付
株式会社資生堂	5,705,678	一般法人寄付
ソニー株式会社	4,749,460	スマトラ 指定法人寄付
アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）	4,493,280	一般法人寄付
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,242,800	森林保護全般 指定法人寄付
JA全農たまご株式会社	3,122,000	一般法人寄付
株式会社一如社	3,000,000	一般法人寄付
オリンパス株式会社	2,855,080	全般 指定現物寄付/一般法人寄付
新光投信株式会社	2,621,543	一般法人寄付

(3) 募金（法人・個人）

前期来、震災の影響をもっとも顕著に受けたのが募金部門ですが、今期も引き続き低調な結果となりました。下期に若干の巻き返しがみられたものの、対予算 51%に終わりました。

＜大口法人募金リスト＞

単位：円

カスミグループ	5,285,686	一般募金
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,242,800	森林保護全般 指定募金
アメリカンファミリー生命保険会社	3,877,920	一般募金
株式会社ワンダーコーポレーション	3,214,933	一般募金
株式会社資生堂	2,160,900	スマトラ 指定募金
株式会社ココストアウエスト	1,500,000	一般募金
株式会社ココストア	1,365,854	一般募金
大和ハウス工業株式会社	930,000	一般募金
株式会社ジェーシービー	672,255	一般募金
公益財団法人東京動物園協会	564,144	一般募金
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	500,000	サンゴ礁保護研究センター全般 指定募金

●2013年6月末現在の常設募金（パンダセット）協力者：2,610件（前期末2,654件）

●新規パンダセット申込件数：常設45件、期間限定22件、その他12件、計79件

(4) ライセンス（収益事業）

好調だった前期を受けて強気の年間予算を設定しましたが、結果は対予算 82%に終わりました。既存のライセンス契約者からの収入は順調に推移しましたが、代理店から

の新規案件が1件も成立しなかったことが予算未達の大きな要因です。一方で、他国のWWFが契約しているライセンサーからの日本市場展開の問い合わせも増えており、代理店との契約の見直しを含めた検討が課題です。

### (5) クレジットカード収入（収益事業）

（株）クレディセゾンとの提携によるクレジットカード「WWFカード」からの利用金額に応じた収入です（利用額の0.5%）。カードホルダーの減少に伴い、収入が減少する傾向にあり、今期は対予算74%となりました。

## 3. パンダショップ（物品販売事業部門）

### <概況>

前期末6月の前任者退職に伴い新しいスタッフが着任し、新たな感性と経験を活かして健闘しましたが、売上収入面では対予算55%（対昨年83%）と、近年の売り上げ低下傾向に歯止めをかけるには至りませんでした。今期の大きな課題であったパンダショップ再建計画については、4月に全局的なディスカッションがなされ、共有されました（下記参照）。その方針に従い、今期からの売り上げ回復を目指します。

### <主な活動状況>

#### (1) 主な商品企画：

- ① ブータンプロジェクト支援企画：寄付付きウンピョウ・マグカップ
- ② OPL キャンペーン連動企画：広報のワンプラ T シャツデザインコンテスト優勝作品の製品化
- ③ 地域支援商品：被災地支援の福幸米、自然エネルギー祝島の名産品 他
- ④ ロゴ付き新商品開発：ソーラーウォッチ、T シャツ、エコバッグ、マグカップ、ノート 他
- ⑤ 各種認証マーク付き商品：フェアワイルド認証ハーブティー、FSC・MSC 認証アイテム 他

#### (2) 販促活動について：

- ① Twitter や facebook・メルマガ・スタッフブログにて、日々の情報発信や商品提案等のWEB販促を継続的に行いました。
- ② WEBにてクリスマス商品（アドベントカレンダーチョコ）やワンプラ T シャツの売込み強化ページを展開しました。チョコレートは目標700個を2ヵ月で完売。

### <共有されたパンダショップ再建計画の主な内容>

#### 1. 近年の売上落ち込みの主な原因

- ① デフレによる若年層の客離れ
- ② インターの原材料規制強化による売れ筋商品の発売中止
- ③ システム導入にともなう「後払い」廃止による中高年層の客離れ

## 2. パンダショップ事業の目的の共有

- ① 収益による自然保護活動資金調達
- ② WWF 推奨製品の普及と、商品を通じた OPL (One Planet Lifestyle) の具体的なソリューションの提案
- ③ ロゴグッズによる認知度向上とサポーター拡大

## 3. 売り上げ回復への3つの方向性

- ① お客様との信頼関係の再構築（送料・返品条件の見直し、お客様の声の共有）
- ② 分析・データに基づいた商品企画
- ③ オンラインを活用した販促



### Ⅲ. 2013年6月期 広報室活動報告

#### <ハイライト>

1. Tシャツコンテスト、レンジャー支援企画、パブリックコメント企画、アースアワーと、メディアミックスを駆使した企画でより多くの外部協力者を巻き込むことに成功。
2. プレスワークや発信物の統一化によりWWFの情報発信の信頼を強化したとともに、OPL (One Planet Lifestyle) プロジェクトおよびAC 広告の獲得と、ブランドを強化する施策が始動した。
3. ウェブの人気コーナー（1枚の写真、スタッフブログ）が定着しているとともに、SNS も大きくフォロワー数を伸ばし、WWFファンの新しい層を開拓。

広報室では、2016年6月期まで下記の目標と戦略ポイントにより活動しています。

#### ■ 2016年6月期までの目標

発信力を総合的に高めつつ、人と自然が調和して生きられる未来の実現を、“One Planet Lifestyle”を基本コンセプトに据えて展開し、WWFの活動への認知を高め、WWFの活動への幅広い支持を得る。

#### ■ 目標を達成するための4つの戦略ポイント

- a. メディアミックスとわかりやすさ
- b. GPFに貢献する見せ方
- c. WWFブランドの強化
- d. ネットワークおよび他室との連携

#### ■ 概況

人の補充が完了し、今期はより効果的な広報活動に向けて業務を改善することができました。また、新しいターゲットに向けて新しい施策を実施し、よい結果を残すことができました。特に下記について成果があがり、発信力の強化につながりました。

1. より多くの外部協力者を巻き込んだ企画が充実しました
- 2.



### <カードフォー レンジャー>

WWF ジャパンが支援するブータン・カメルーンについて、現地への興味関心を高め、WWFの活動の認知向上を目的とした「カードフォーレンジャー」を実施しました。これは、両国の保護区で活動するレンジャーたちに一般の方から応援カードを募り、返事を得るというキャンペーンです。ブータンとカメルーンのレンジャーにインタビューを行い、ウェブに掲載。生の言葉に触れることで、レンジャーという仕事への理解の促進を図りました。

新聞4紙において大きく掲載され、応援メッセージも計1,057通と反響の大きなものとなりました。千羽鶴の贈呈や「資金援助だけでなくこういった支援ができるのは嬉しい」といった声も聞かれました。「単に応援カードを受け付けて終わり」とするのではなく、レンジャーの手書きメッセージが入ったカードを返信することで、より現地レンジャーへの共感を得ることが可能になりました。この企画は全国の子供向けワークショップを一同に集めた「こどものためのワークショップ博覧会」やインターナショナルスクールの環境教育の場へと広がり、さらに関わる人々が増えています。

### <アースアワー>

ネットワークのイベントであるアースアワーでも、一般の方々のWWFへのリーチ数を伸ばしています。

昨年と同様なフェイスブックを中心とした巻き込みに加えて、アーティスト集団「ミラーボーラーズ」の協力を得、東京タワーでの自転車発電によるパフォーマンスを実施しました。

また、ネットワーク作成のアースアワー特別映像を活用することにより、最終的に事業所200社以上、フェイスブックのイイネが3000以上、イベント参加者約1000人が参加しました。

### <Tシャツデザインコンテスト>

東京デザイナーズウィークとウェブを活用した「Tシャツデザインコンテスト」では、優秀作品をパンダショップにて販売。Tシャツ売上一位となりました。トレンドをリードする層を巻き込み、さらに人気Tシャツを企画し一般の方を楽しい形で巻き込むことにより、WWFの考えを新しい層に広げることに成功しました。



### <エネルギー政策パブコメ>

その他、同様に前期に報告したエネルギー選択肢についてのパブリックコメントの支援策としたウェブ企画も、2013年6月期のWWFの発信力を高めた特筆すべき成果です。

### <ワンプラネットライフスタイル>

普及啓発に必要なツールをそろえました。特に冊子は好評です。内外のイベントで発信を始めました。一番大きな成果はAC（旧広告機構）の支援を獲得したことです。

### <(株)ソニー企業広告>

(株)ソニーの企業広告にスマトラ森林プロジェクトが起用され、BSTVの世界遺産を中心に放映されました。上質な出来上がりとともに放映された番組がWWFと親和性が高かったことにより、WWFのブランド力が大いに強化されました。



### 3. 自社メディアの発信力が強化されました

ウェブなどの発信物のデザインを順次WWF インターナショナルのガイドラインに合わせました。会報も 2013 年 9/10 月号の変更を目指し準備しました。これですべての定期刊行物のブランドは統一されることになります。

また、プレスを担当者を置き、プレスワークの統一化が実現しました。これにより WWF の情報発信の信頼を強めることができました。

ウェブの人気コーナー（1 枚の写真企画、スタッフブログ）が定着しているとともに、SNS も大きくフォロワー数を伸ばしています。これによりリーチ数が格段に増加しています。

## ■ 各プロジェクトの目標と進捗状況

### 1. ウェブ事業プロジェクト

目標：WWF ジャパンの情報発信の中心として、スムーズで確実に発信できる状態を維持するとともに、GPF に沿った見せ方をスタートさせます。

	事業計画	進捗状況 (2012/7-2013/6)
1	外部委託を通年のレベルに戻し、ウェブの開発と管理に注力。	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部委託を通年レベルに戻した。</li> <li>ウェブへのアタックの脅威に対し、緊急的にセキュリティを強化した。今後、継続的なセキュリティの担保のため、必要なガイドラインの作成に取り組む。</li> </ul>
2	ネットワークのブランディングデザインにそったサイト作成。	<ul style="list-style-type: none"> <li>WWF インターナショナルのガイドラインに則して、事前調査の後、公式サイトのデザインを更新した。これによりブランディングが強化された。</li> <li>デザインの修正に合わせ、サイトの体系的なパフォーマンスの向上を行なった結果、サーバーのトラブルが確実に減少した。</li> <li>スマートフォン、タブレットのアクセスユーザーの増加に対し、入会、寄付等のフォーム画面に対応した。実施前と後で、実際の運用数値に変化が生じるかどうか、引き続きモニターする。</li> <li>デザイン変更等インフラやデザインの改善に手がかかり、企画的な内容への資金投下がやや滞る形となった。また、facebook のキャンペーンでは、外部による無償協力を得た。</li> </ul>
3	ペーパーレスに向けた試験的取組（電子書籍リーダーのモニター）から結果を得、次のステップにつなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(株)ソニーから寄贈された電子書籍端末を、300名（応募総数：1783名）の会員に配布。</li> <li>WWF オリジナルの電子書籍を作成し、上記会員に配布。</li> <li>会員モニターにWWF から電子書籍にて発信する場合のニーズなどについてアンケートを実施。</li> <li>外部サイト（Sony Reader Store）と連携。</li> <li>電子書籍化にむけ、ソーシャルメディアを活用しクチコミ効果を検証した。</li> </ul>
4	SNS (Social Networking Service:社会的ネットワークをインターネットで構築するサービス) のレビュー、および最善策の試行。	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクセス解析会を月に一回開催し、アクセス状況を事務所で共有。スタッフの退職により、2013年4月以降、一旦停止。</li> <li><b>ソーシャルメディアの活用</b> 外部の協力のもと、初のアプリを絡めた facebook でのキャンペーンを実施した。効果を測定・検証した後、メインサイトへのユーザーの誘導を図った。</li> <li>【今日一枚】が人気コーナーとなり、リーチ数が各段に増加した。</li> <li>フェイスブックのファンが 10,000 人弱となる。</li> </ul>

今後の課題	<p>&lt;メインサイト&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月アクセス解析勉強会を開催し、サイトアクセスのトレンドや、ユーザーの関心について、局内共有を継続してきた。PDCA の実施と体制の確立については、十分な実施ができなかった。特にアクセスの解析を改善に活かす取り組みができていない。人力的にも現状では苦しいため、外部の専門家のコンサルティングを受け、アクセス解析を軌道に乗せる試みを開始した。個人サポーター10万人プロジェクトをはじめ、当会の主要な活動、情報発信についての反応、目標達成値の設定と検証を行い、その結果に基づいたサイトの改善を今後行なう。</li> </ul> <p>&lt;主要ソーシャルメディア&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な発信に伴い、フォロワーが確実に増加し続けており、リーチする対象が拡大している。しかしながら、双方向でのコミュニケーションについては、対応のためのノウハウとリソースが現状欠如しており、またリスク対策のための内部管理も確立できていない。今後当会として、このメディアをどのように使って行くかを含め、その方針と活用のあり方を見定めていきたい。</li> </ul>
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



## 2. 支援者の強化プロジェクト

目標：何らかの形でWWFと関わりをもった人（イベント参加者や問い合わせをした人）を会員や寄付者に、会員や寄付者をより強力な支援者にと、それぞれを強化することにより、発信力を高めることにつなげます。

	事業計画	進捗状況（2012/7-2013/6）
1	会報/年次報告書 / パンダニュースのボリュームを例年にもどし、会員	例年通りのボリュームにて、すべての定期刊行物、会報誌『WWF』（年6回）、ジュニア会員向けニュースレター『パンダニュース』（年4回）、年次報告書（年1回）の制作・配布を滞りなく完遂した。これらを通して、会員継続率の維持に貢献したと考える。

	の満足度アップ。	<p>&lt;会報『WWF』&gt;  サポーター事業室と共同で、はがき同封型の小規模アンケートを実施。また試験的な電子書籍化を行ない、モニター・アンケートを実施した。結果については、予定が次年度にずれ込んでおり未集計。今後、この結果等を基に、デジタル媒体による会員サービスの方針を確立する。（ウェブ事業参照）2013年9/10月号のデザインブランド化を準備した。</p> <p>&lt;『パンダニュース』&gt;  数年ぶりとなる読者アンケートを行ない、高い率で返信を得た。この結果により、以前のユーザー層とのトレンドの変化、また好まれているコーナーやテーマなどの把握が可能となり、企画改善につながった。</p> <p>&lt;年次報告書&gt;  WWF インターナショナルのガイドラインに則しデザインを改訂した。また、震災プロジェクト等サポーターの関心事に則した活動について報告内容をまとめた。</p> <p>&lt;その他&gt;  ・人気アニメ映画「ロラックスおじさんの不思議の種」の会員限定試写会を3回開催した。  ・イラストカレンダーを作成し、協力者のインセンティブとした。</p>
2	ボランティアさんとの協働の機会の増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア映像翻訳とその他翻訳チームを結成。</li> <li>・すべてのイベントにおいてボランティアさんが関わった。その力を借り一般への訴求力を向上させた。</li> </ul>
3	対象者の参加意識と満足度の向上のための体制整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新体制のもと、他室からの協力を得ながら、事務局を来訪する修学旅行生らを対象とした直接的なレクチャーを26回実施し、のべ139名の学生に環境問題やWWFの取組について密度の濃いレクチャーを行なった。多数の感謝状等が届いており、WWFという団体の好印象を、若年層に植え付けることに寄与していると考えられる。</li> <li>・新たな試みとして、サポーター事業室会員係との定期的な合同ミーティングの場を設けることとした。これにより、サポーター・サービスの視点からの適切な、または新しい手法の検討が可能になった。会報誌等の企画や活用についても、アイデアや手段を共有・実施することができた。この会議では、会員の継続率や退会理由等も検証・共有されており、今後より踏み込んだ支援者強化の取組の母体として機能することが期待される。</li> </ul>
4	対象者からの意見や視点からの活動のレビューと修正	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランドイメージの統一に向けて、広報室内で認知度調査の結果の活用についてのワーキンググループを結成。</li> </ul>
そ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・発信物（ウェブと印刷物）のブランドガイドラインによる統一化を順次進</li> </ul>

の 他	<p>めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パネル保管配送の委託先の事業終了を機会に、今後のパネル貸出業務についてレビューした。その結果、パネルの種類数とセット数を整理し貸出体制を改善した。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン、オフラインのメディアミックスによる、サポーターをインフルエンサーとして強化・活用する点については、不十分な実施状況となった。現状の体制の範囲では、今期実施以上の機会の創出は難しいと思われた。</li> <li>・会報のリニューアルについては、会員サービスという観点により、来期にその方針を作成する。</li> </ul>



### 3. メディアミックスプロジェクト

目標：最適なメディアを組み合わせて活用し、相乗効果で発信力を伸ばす。

	事業計画	報告 (2012/7-2013/6)
1	<p>可能な場合は直接取材し、共感を得る発信を心がける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソニー企業CM「スマトラ森林保全」にてWWFの活動が紹介され、BSTV 世界遺産を中心に放映された。非常に好感度が高い内容で、反響があった。</li> <li>・エネルギー基本計画へのパブリックコメントを促すウェブ企画を実施し、多くの参加者を得る。</li> <li>・毎日新聞（共存の一步）、毎日小学生新聞（アニマルワールド 1）に連載するとともに、ウェブでの連携を図った。毎日新聞（君の名は）と毎日小学生新聞（アニマルワールド 2）は 4 月以降さらに一年間継続となった。</li> <li>・ドネーションアピールのコンテンツの作成、およびリーフレットやウェブを組み合わせで資金調達の効果の拡大を図る。</li> <li>・「寿司ガイド」を、ウェブだけではなくスマートフォン仕様のもも新たに作成し、イベントでも活用。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルキャンペーンである「野生生物の違法取引」をテーマに、レンジャーに励ましのメッセージを送る「Card for Ranger」の企画を実施。カメルーン、ブータンの WWF ジャパン支援先や学校などの外部協力者などを巻き込んだ企画となった。</li> </ul>
2	すべての発行物をネットワークのガイドラインに合わせる。	順次変更中。寿司ガイド、暮らしのなかのパーム油、WWF ジャパン年次報告書、ワンプラネットライフスタイル冊子、日本のエコロジカルフットプリントなど。
その他	認知度調査の活用	ブランド力強化に向け、認知度調査の結果を分析するとともに、全局での議論にむけて準備。
	ネットワークとの連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アースアワーを、例年のフェイスブックによるものに加えパフォーマンスイベントを実施。これはアーティスト集団「ミラーボラース」の自転車発電によるもので、東京タワーの協力のもと行った。より多くの人にアースアワーの趣旨を伝えられ、ネットワークの報告には日本の事例も紹介された。</li> </ul>
	広告代理店やメディアとの協力関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンヌライオンズ国際クリエイティビティ・フェスティバル（世界 3 大広告賞の一つ）参加への予選考として、主催の ACC(全日本 M 放送連盟)に WWF の活動テーマが選ばれる。全国の若手クリエイターに WWF の活動が周知されたとともに、協力を得られる広告代理店やクリエイターの発掘につながった。</li> <li>・生物の多様性をテーマにした 2013 年カレンダー（第 64 回全国カレンダー展日本マーケティング協会賞金賞受賞）の企画支援。</li> </ul>







#### 4. ワンプラネット・ライフスタイルプロジェクト

目標：ブランディングの変化を目標にし、WWFの発信をワンプラネットライフスタイルをテーマとしたものに統一します。WWFの活動を「自分ごと」化し、より広い層に訴求させます。

	事業計画	報告 (2012/7-2013/6)
1	基本的なコンセプトの整理、広い層への訴求のための素材などの準備。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本コンセプトを現状に合わせたものに局内調整 (コピー「地球にちょうどいい生き方」を活用する、ターゲットを消費者にフォーカスするなど)</li> <li>・冊子の制作および配布。</li> <li>・ウェブページ制作の準備</li> <li>・ワンプラネットライフスタイルのイラストを活用した映像の作成</li> <li>・パネルの作成</li> </ul>
2	外部メディアを活用した企画の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アート、カルチャー、スポーツをテーマにフジロックフェスティバルなどのイベントに参加。</li> <li>・東京デザイナーズウィークとウェブを活用し、Tシャツコンテストを実施し、パンダショップにて販売。</li> <li>・パナソニックセンターにて、外部協力者とともにクリスマスイベントを実施。</li> <li>・WWFジャパン主催のイベントの実現に向け、局内および関係者と調整。</li> </ul>

3	WWF ネットワーク素材の活用	・WWF ネットワーク作成による映像の日本語版（パーム油）を制作。
4	インターネットラジオの可能性の検討	未着手



## 5. 震災子ども交流プロジェクト

目標：震災復興プロジェクトの集大成として、持続可能な海の利用を次世代につなげる。

	事業計画	報告（2012/7-2013/6）
1	白保と南三陸の子ども交流会の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月に実施、12月に南三陸にて子供たちへフォローアップ。</li> <li>・関係者より高い評価を得、外部資金を獲得し、次年度に継続する。すでに女性誌の取材申し込みあり。</li> </ul>
2	映像の制作とメディアへの売り込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災後一年がたち興味が薄れ、中央のメディアでは露出はなかったものの、多数の地方でのメディア露出を得た。</li> <li>・交流会の映像を外部資金の協力を得て制作し、WWFの活動紹介として活用。</li> </ul>
	その他、広報以外の成果	<p>自然保護室の活動である「海の学習」で南三陸町の子どもたちに事前授業とシュノーケリング講習が行われ、その成果を白保での交流会で活かせる内容とすることで、「海の学習」との連携と相互の相乗効果を図ることができた。また、南三陸町の漁業者ならびに地域コミュニティ復興の一翼を担うメンバーと白保での地域づくりを担うメンバーとが交流することで、双方の意識向上を図ることができた。</p>



## 6. ACプロジェクト

	事業計画	報告 (2012/7-2013/6)
1	AC ジャパン (旧公共 広告機構) 支援団体 キャンペーンに申請	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援団体キャンペーンに申請し、その支援を獲得。</li> <li>・2013年7月から「ワンプラネットライフスタイル」をテーマにTV, ラジオで放映、交通広告、指定映画館、新聞、雑誌で掲載される予定。</li> </ul>

## 7. その他 (子ども対象企画)

今期は、今後の子どもをターゲットとする施策の検討のために、下記のような子どもを対象とした活動を意識して実施しました。

- ・ふるさとの海交流会 (白保×南三陸)・カードフォーレンジャー (Card for Ranger)
- ・毎日小学生新聞連載・アニマルプラネット/ディスカバリーチャンネル夏休み自由研究大賞・ドラえもん自然はともだちコンテスト・エコファミリー新聞連載、
- ・イベント「地球へのメリークリスマス」・映画「ロラックスおじさんの不思議の種」試写会・パンダニュース、・エコ探検隊 (サポーター事業室)、

## 広報活動主な発信一覧（2012年7月～2013年6月）

\*記事の掲載状況については【メディア露出・プレスリリース集計】をご参照ください。

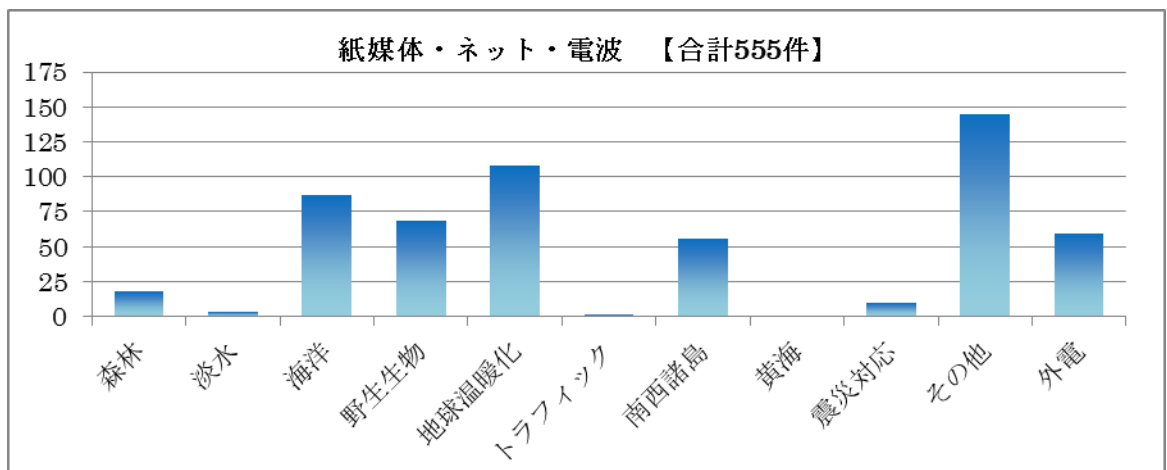
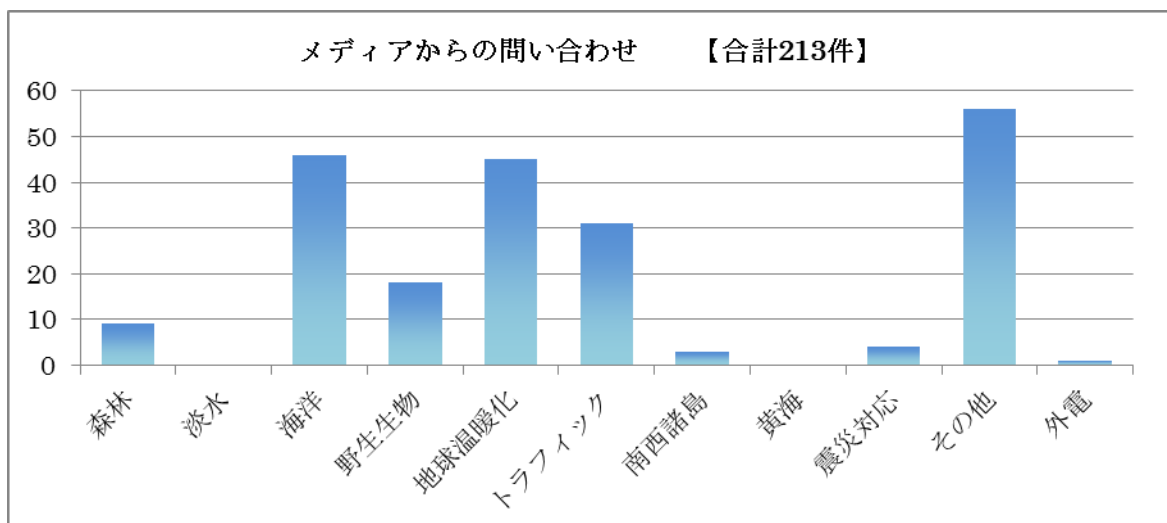
	メディアミックス	外部メディア
One Planet Lifestyle	<p>&lt;パンダショップ+ウェブ+イベント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Tシャツデザインコンテスト（東京デザイナーズウィーク）</li> </ul> <p>&lt;冊子+ウェブ+スマートフォン+イベント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寿司ガイド</li> <li>・One Planet Lifestyle冊子制作・配布</li> </ul>	<p>&lt;イベント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子対象イベント 「地球にメリークリスマス～One planet lifestyle」</li> <li>・フジロックフェスティバル</li> <li>・オーシャンビープル</li> <li>・ロックストウキョウ</li> <li>・アースアワー2013×ミラーボーラーズ</li> <li>・アースデイトウキョウ</li> <li>・グリーンルームフェスティバル'13</li> <li>・エコライフフェア</li> <li>・IKEA環境月間イベント</li> </ul>
映像・アート カルチャー の活用	<p>&lt;テレビ+ウェブ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソニー企業CM「スマトラ島森林保全」</li> </ul> <p>&lt;イベント+ウェブ+外部メディア&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさとの海交流会（白保×南三陸）（継続中）</li> </ul>	<p>&lt;音楽イベント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ライブ エコモーション」</li> </ul> <p>&lt;アートイベント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代官山T-SITEギャラリーにて写真展</li> <li>・ロゴデザイン見本帳</li> <li>・ロゴづくりアイデア大全</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全日本シーエム放送連盟主催ヤングカンヌコンペティション国内予選</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストカレンダー作成</li> </ul> 	<p>&lt;ラジオ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化放送「田辺晋太郎ーあなたへバトンタッチ」</li> <li>・文化放送 全国高校生エコアクション・プロジェクト</li> </ul> <p>&lt;新聞&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日小学生新聞連載</li> <li>・毎日新聞連載</li> <li>・エコファミリー新聞連載</li> </ul> <p>&lt;雑誌等広告&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「クリム」2012年7月号～月1回、計11回掲載</li> <li>・「ダイバー」2012年7月号～月1回、計11回掲載</li> <li>・「プロジェクトデザイン」11、12、1月号掲載</li> <li>・「このは」9、4月号掲載</li> <li>・「メノガイア」春、夏号掲載</li> <li>・読売広告「生物の多様性」カレンダー（日本カレンダー広告大賞金賞受賞）</li> <li>・「ミス・アースジャパン2013」</li> </ul> <p>&lt;イベント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピースオンアース</li> <li>・ドラえもん「自然はともだちコンテスト」</li> <li>・ディスカバリーチャンネル自由研究大賞</li> </ul>
ネットワーク および 他室との連携	<p>&lt;ウェブ+イベント+フィールド&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カードフォーレンジャー/スーパーサイエンスキッズ/特別授業（西町インターナショナルスクール）</li> </ul> <p>&lt;ウェブ企画&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー基本計画パブコメ支援キャンペーン</li> </ul> <p>&lt;紙媒体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会報、パンダニュース、年次報告書</li> </ul>	<p>&lt;映画&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ロラックスおじさんの不思議の種」試写会開催</li> </ul> <p>&lt;他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グンゼ寄付つき商品監修「WWF支援パンツ」</li> </ul>

## 【メディア露出・プレスリリース集計】

集計期間：2012年07月～2013年06月

集計データソース：メディアからのお問合せリスト（内部集計）、@nifty 雑誌・記事掲載検索  
 メディア露出件数（2012年07月～2013年06月）

	プレスリリース配信数			メディアからの問合せ			紙媒体・ネット・電波 露出数
	前期	後期	合計	前期	後期	合計	
森林	1	1	2	3	6	9	18
淡水	0	0	0	0	0	0	3
海洋 ※水産含む	5	3	8	18	28	46	87
野生生物 ※クマ含む	1	5	6	2	16	18	68
地球温暖化	9	9	18	17	28	45	108
トラフィック	0	1	1	29	2	31	1
南西諸島	0	1	1	1	2	3	56
黄海	0	0	0	0	0	0	0
震災対応	2	0	2	3	1	4	10
その他	7	5	12	17	39	56	145
外電	0	0	0	1	0	1	59
<b>合計</b>	<b>25</b>	<b>25</b>	<b>50</b>	<b>91</b>	<b>122</b>	<b>213</b>	<b>555</b>



## ■WWF ジャパン ウェブサイト 記事投稿数

項目	分類	2011年7月～6月	2012年7月～6月
ウェブ記事の投稿数	活動記事	193	169
	イベント紹介	101	68
	会報紹介	19	16
	法人関連	6	10
	スタッフブログ	204	283
	トラフィック	39	36

## ■WWF ジャパン ウェブサイト アクセス状況

項目	内容	2011年7月～6月	2012年7月～6月
実績値データ			
訪問数	ウェブサイトへのアクセス数	3,594,789	3,557,366
ユニークユーザー数 <small>*注1</small>	ウェブサイトの合計訪問者数	2,743,862	1,903,272
ページビュー数	サイト全体でページが何回表示されたか	5,236,355	5,643,902
1日最多セッション数	1日で記録した最大のアクセス数	84,605	84,592
平均値データ			
1日平均訪問数	1日の平均アクセス数	9,822	9,746
平均ページビュー	1回のアクセスで、平均何ページ見られているか	1.46	1.59
平均滞在時間	1回のアクセスで、サイト内に平均どのくらいの時間滞在するか	0:00:37	0:00:53
割合値データ			
新規訪問率	初めてアクセスした人の割合	73.2%	50.2%
直帰率	1ページだけ見て、サイトを離れてしまった割合	87.9%	83.7%
スマートフォン率 <small>*注2</small>	スマートフォンからのアクセスの割合	9.8%	8.8%

## ■WWF ジャパン ソーシャルメディア 運営状況

サービス		2012/12/31 現在	2013/8/26 現在
		フォロワー数(人)	
Twitter		72,351	70,859
Facebook	WWF Japan	9,718	15,237
	Earth Hour Japan	1,561	3,059
	WWF Savr Sumatra	1,028	1,229
	WWF Japan Event	-	54
Google+		12,565	21,268
LINE		-	108
		合計再生回数(回)	
Youtube		9,280	322,662

## ■トラフィック ウェブサイト アクセス状況

項目	内容	2011年7月～6月	2012年7月～6月
実績値データ			
訪問数	ウェブサイトへのアクセス数	134,298	103,957
ユニークユーザー数	ウェブサイトの合計訪問者数	112,463	80,041
トップページ・ページビュー	サイトのトップページが何回表示されたか	17,904	16,969
1日最多セッション数	1日で記録した最大のアクセス数	25,036	2,775
平均値データ			
1日平均訪問数	1日の平均アクセス数	367	285
平均ページビュー	1回のアクセスで、平均何ページ見られているか	3.04	2.74
平均滞在時間	1回のアクセスで、サイト内に平均どのくらいの時間滞在するか	0:01:57	0:02:04
割合値データ			
新規訪問率	初めてアクセスした人の割合	80.9%	74.5%
直帰率	1ページだけ見て、サイト	58.1%	61.2%

	を離れてしまった割合		
スマートフォン率	スマートフォンからのアクセスの割合	7.9%	15.0%

### ■ パンダショップ ウェブサイト アクセス状況

項目	内容	2011年7月～6月	2012年7月～6月
実績値データ			
訪問数	ウェブサイトへのアクセス数	190,979	175,993
ユニークユーザー数	ウェブサイトの合計訪問者数	103,422	96,055
トップページ・ページビュー	サイトのトップページが何回表示されたか	188,124	163,046
1日最多セッション数	1日で記録した最大のアクセス数	1,271	1,299
平均値データ			
1日平均訪問数	1日の平均アクセス数	522	482
平均ページビュー	1回のアクセスで、平均何ページ見られているか	10.40	10.09
平均滞在時間	1回のアクセスで、サイト内に平均どのくらいの時間滞在するか	0:05:59	0:03:57
割合値データ			
新規訪問率	初めてアクセスした人の割合	48.3%	48.2%
直帰率	1ページだけ見て、サイトを離れてしまった割合	36.4%	35.9%
スマートフォン率	スマートフォンからのアクセスの割合	20.3%	25.5%

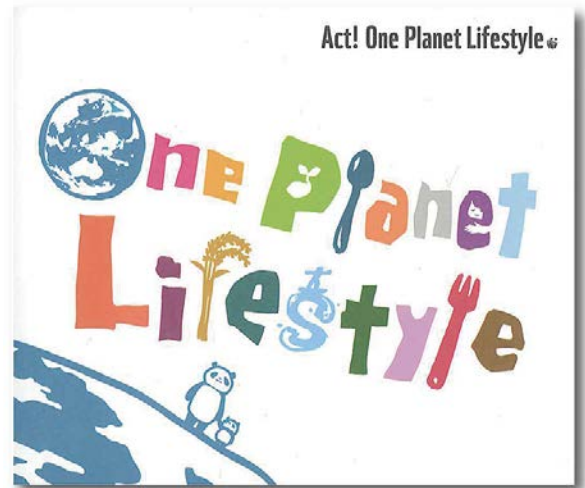
\*注 1)

次の理由によりニュースサイト経由で大きな流入があったため、2011/7-6期は特別多い。2011/10「ベトナムのジャワサイ絶滅」で(約8万人) /2011/12「動物うらない」(約40万人) /2011/12「自然エネルギー署名」(約5万人)。新規訪問率が大きく減っているように見えるのも同じ理由。



\*注 2)

2011/12 に SNS で「どうぶつうらない」が拡散し、スマートフォン率が瞬間的に高まった。全体傾向では、直近 1 年のほうがスマートフォン率は高い。



## IV. 2013年6月期 企画調整室活動報告

### <ハイライト>

1. 14名の入局と12名の退局があり\*、また、深刻なITトラブルが相次ぎ、人事・総務  
日常業務の優先を余儀なくされました。  
\*準職員・パートタイマーを含む
2. 情報資産管理のプロジェクトでは、無線LANの導入、電子決裁の提案などを実施、情  
報活用のルールとインフラの提案は9月に延期しました。

### ■ 4つのプロジェクト

2016.6期までの中期目標：「人材を育成して、内部統制ができ、総合力が高まる風土と環境を創造する」を達成するため、4つの重点課題に取り組む4つのプロジェクトを実施しています。

1. 情報資産の共有・管理と活用：いつでもどこでも情報使おうプロジェクト
2. 職員の人間力と組織の総合力の開発・実践：APPLE II（人材育成型人事制度構築II）プロジェクト
3. 事業評価（計画・実施・評価・学習のサイクル）の標準化と実行：結果を次に活かそうプロジェクト
4. 知的生産性を向上させ One Planet Lifestyle を具現化する職場環境の構築：未来オフィスプロジェクト

### ■ 各プロジェクトの進捗状況

#### 1. いつでもどこでも情報使おうプロジェクト

##### <2013.6期の進捗>

社内無線LANを導入しました。併せて無線対応プロジェクトを増やしたことにより、プレゼンテーションのセットアップ時間が大幅に短縮されました。電子メールサービスを見直し、移行を8割完了しました。インターネットに接続できる環境であればどこでも、過去のメールを含めたすべてのメールが見られるようになり、フォルダーなどの動作環境に対する操作もどこからでも反映されるようになりました。一方で、WWF インターナショナルの配布メールによるマルチアカウント対応や Google サービスとの連携などで混乱が発生しています。電子決裁は7/1 導入を目指して提案しましたが、新たなニーズが確認され、検討を継続中です。

上記電子メールサービスの移行時のトラブル、及び、システム関連の複数のトラブルにより、情報活用ルールとインフラの提案を9月末まで延期することとしました。

<2016.6 期末までの達成目標>

- 1) 最低限の必要な情報で迅速に意思決定が行なわれる。
- 2) どこにいても仕事ができる。
- 3) 社内手続がスムーズに行なわれる。
- 4) 職場のルールが徹底される。

## 2. 人材育成型人事制度プロジェクト (APPLE) PHASE II \*

<2013.6 期の進捗>

人材育成基本方針を基に、当法人が求める人材の資質・能力を具体的な行動に表し、行動レベルを体系的に整理し、判定シートを作成しました。計画では、行動レベル判定シートにより室長もしくは全職員が評価した結果から、弱味と思われる部分が補完できる研修を企画し、これを体系化するとしていましたが、2012.6 期に導入した「個人目標による管理」を用いて期末に行なう行動評価がまだ十分に浸透していないため、室長への開示に留めました。

主任主席資格制度の総括を行ない、資格制度に止まらず次世代への継承を適切に行うために必要な仕組みを包括的に検討することが必要という人事会議の結論を得ました。

<2016.6 期末までの達成目標>

多様な個性と能力を持った職員が、優れた合意形成を生み出し、共通の目的に向けて協働し合える風土・文化を創る。

\*APPLE は 08 年 12 月に開始。「人材開発・評価」「健康・安全・福祉」「コミュニケーション」「人材配置」の 4 つの領域でセルフマネジメントのできる人材を育成し、相互啓発的風土を醸成する制度構築と施策実施に取り組んできた。2012 年 7 月 1 日に核となる「個人目標による管理」制度を導入し、PHASE II 「職員の人間力と組織の総合力開発実践」に入った。

## 3. 結果を次に活かそうプロジェクト

<2013.6 期の進捗>

これまでにない規模の入局・退局への対応と、人事の重要な緊急案件への対応に時間を要したため、本プロジェクトの進捗は最小限とする選択をしました。レビュー報告書の様式作成により、事業評価の基本的な書式の整備が完了しました。1 年間のサイクルを実行し、年間スケジュールの見直しを行ないました。KPI の結果の分析と活用は 2014.6 期に持ち越しています。

<2016.6 期末までの達成目標>

- 1) ①全局の主要な活動について、事業評価（計画・実行・評価・学習のサイクル）が標準化され、個人目標による管理制度と整合する運用により、確実に実行され、評価結果が向上している。  
②全局・各室・各グループの中期目標及び各年度の目標の設定・見直し・評価・学習のサイクルが標準化され、確実に実行され、評価結果が向上している。
- 2) WWOV (Worldwide Overview: WWF ネットワーク各国オフィスの業績報告) への報告が

確実に実行され、結果の分析と学習のプロセスも標準化され、定着し、KPI が向上している。

- 3) WWF ジャパン独自の指標による組織評価の必要性が検討され、内部評価については制度化が行なわれ、外部評価は提案が完了している。

#### 4. 未来オフィスプロジェクト

##### <2013.6 期の進捗>

基本構想の策定を依頼する外部委員会の立ち上げを計画していましたが、局内の議論の結果、新たに建設する案の実現可能性の見極めを優先することに計画を変更しました。外部への説明資料としても使用できる資料（課題、目的、方法の比較など）をまとめ、場所の選定基準を設定し、公的な土地・施設など物件探しを行ないました。公的機関とコラボレーションする新たな方策もアプローチしていますが、先方の計画などとの調整が必要で実現には至っていません。

##### <2016.6 期末までの達成目標>

地球 1 個分を具現化したオフィスをつくり、1) コスト削減と環境負荷削減 2) 快適性と知的生産性の向上 3) 持続可能な社会の提案を実現し、活動の普及に貢献する。

#### **【事務局の環境負荷・林産物調達について】**

WWF ジャパン東京事務所およびサンゴ礁保護研究センター(白保事務所)における、資源の使用量と、CO<sub>2</sub> の排出量をまとめました(表参照)。事務所における CO<sub>2</sub> 排出量は白保事務所での電気、液化ガス、ガソリン使用量が増加したことから 3% 増加しました。出張時の航空機使用による CO<sub>2</sub> 排出量は 20%増加しました。また、紙使用量については、前期報告漏れがあったこともあり、前期と比較して大幅増加していますが、この点を考慮したとしても 46%増加しました。主には資金調達目的で全体の 48%を占めました。

林産物調達方針を設定し、FSC 認証紙の使用を推進していますが、2013.6 期は 99.7%の使用率でした。

表：エネルギーおよび資源使用量の推移

使用項目	2009年度		2011. 6月期		2012. 6月期		2013. 6月期	
	使用量	CO2換算量(kg)	使用量	CO2換算量(kg)	使用量	CO2換算量(kg)	使用量	CO2換算量(kg)
<b>□エネルギー使用量</b>								
1. 電気(kwh)	91,361	42,612	73,299	38,006	78,706	39,853	80,851	41,534
2. 都市ガス(m <sup>3</sup> )	2,533	5,319	4,552	7,923	3,627	7,943	3,513	7,763
3. 液化ガス(m <sup>3</sup> )	7.8	51	54.70	83	3.80	11	62.50	375
4. ガソリン(L)	729	1,691	1,657.80	2,427	723.39	1,693	577.49	1,340
小計		49,673		48,439		49,501		51,011
5. 航空機使用		333,626		236,736		309,800		370,260
合計		383,299		285,175		359,301		421,271
<b>□資源使用量</b>								
使用項目	2009年度使用量		2011. 6月期使用量		2012. 6月期使用量		2013. 6月期使用量	
1. 紙資源(kg)	11,230		22,530		23,543		41,932	
うちFSC認証紙(kg)	10,646		22,130		23,543		41,840	
FSC認証紙の割合(%)	94.0%		98.2%		100.0%		99.7%	

- \*注1：2011年6月期については、2010年4月から2011年6月分を12/15換算で算出。□
- \*注2：CO<sub>2</sub>換算に使用した係数は、東京事務所の電力以外、便宜的に定数を使用している。
- \*注3：東京事務所の電力は、毎年環境省が公表する東京電力用の係数を使用している。
- \*注4：紙資源の使用量については暫定的な数値である。
- \*注5：東京事務所のビル共有分電力量は含めていません。

【その他の報告事項】

■理事・評議員・顧問等の再任・異動

・理事

- 【再任】 徳川 恒孝 (2012. 9. 25 付)  
 島津 久永 (2012. 9. 25 付)  
 あん・まくどなると (2012. 9. 25 付)  
 小川 理子 (2012. 9. 25 付)  
 小野寺 浩 (2012. 9. 25 付)  
 川那部 浩哉 (2012. 9. 25 付)  
 潮田 洋一郎 (2012. 9. 25 付)  
 高村 ゆかり (2012. 9. 25 付)  
 中静 透 (2012. 9. 25 付)  
 林 良博 (2012. 9. 25 付)  
 壬生 基博 (2012. 9. 25 付)

・評議員

- 【辞任】 富田 秀実(2013年2月24日付)  
 【選任】 神戸 司郎(2013年2月25日付)

・顧問

【辞任】 森 稔(2012年9月13日付)  
 田畑 貞寿(2012年9月13日付)  
 天坊 明彦(2012年9月13日付)  
 伊藤 由樹(2012年9月13日付)

【選任】 辻 慎吾(2012年9月14日付)  
 亀山 章(2012年9月14日付)  
 木村 康(2012年9月14日付)  
 野村 秀之(2012年9月14日付)

■人員

事務局職員数

- ・事務局長・一般職員・契約職員・準職員・パートタイマーの人数。
- ・人数はフルタイム換算

(常勤を1とし、非常勤者は勤務日の日数により算出。例：週2日勤務の場合は2/5=0.4)

	事務局長	局長付	自然保護室	トラフィック	サポーター 事業室	企画調整室	広報室	合計
2013.6期末	1	1	23.6	4	17.8	13.6	12.8	73.8

■委員会開催

理事会

開催日	会場	主要議題
2012.9.6	WWF ジャパン 会議室	【理事会懇談会】 1. 人事に関する緊急要件
2012.9.14	WWF ジャパン 会議室	1. 2012年6月期事業および決算報告の件 2. 顧問会メンバーの交代の件 3. 規程の改廃等について 4. 不正行為防止・調査方針(案)策定の件 <報告事項> ① 広報認知度調査結果報告について
2013.2.21	WWF ジャパン 会議室	1. 2013年6月期中間事業報告及び中間決算報告の件 2. 大口遺贈案件<福島コレクション(絵画)>につ

2013. 6. 7	WWF ジャパン 会議室	いて 3. 継続雇用希望者再雇用規程の改定について <報告事項> ① 評議員の交代について ② 第三者委員会に関する経過報告 1. 2014年6月期事業計画および事業予算の件 2. 絵画遺贈代わり金の使途について <報告事項> ① 7月開始のAC広告について ② Truly Global について
------------	-----------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 評議員会

開催日	会場	主要議題
2012. 9. 25	WWF ジャパン 会議室	1. 2012年6月期事業および決算報告の件 2. 理事再任の件 3. 不正行為防止・調査方針(案)策定の件 <報告事項> ① 顧問会メンバー交代の件 ② 規定の改廃等について ③ 広報認知度調査結果報告について
2013. 3. 25	WWF ジャパン 会議室	<b>【臨時評議員会】</b> 1. 評議員の交代について 2. 大口寄贈案件<福島コレクション(絵画)>につ いて< ついて (仮題)
2013. 6. 28	WWF ジャパン 会議室	1. 2014年6月期事業計画および事業予算の件 <報告事項> ① 絵画寄贈代り金の使途について ② 7月開始のAC広告について ④ Truly Global について

顧問会

開催日	会場	主要議題
2012. 9. 26	メルパルク 東京、ルミ エール	<話題提供> 「ラムサール条約湿地登録を支えた地域の力」柳生 博（日本野鳥の会会長） <報告事項> ①2012年6月期活動概要報告（事務局） ②事務局からのご連絡・お願い事項等 ③広報認知度調査報告 ④未来オフィスについて



## 【決算概況】

収入については、会費収入および期末に大口寄付のあった個人寄付金がほぼ予算通りの進捗であったものの、法人寄付金および募金収入が大幅な未達となりました。パンダショップでの物品販売事業の不振も続いています。しかし一方で、高価な絵画の遺贈等複数の大口の遺贈収入があったことにより、事業活動収入は、1,929百万円と期初予算（1,196百万円）比161.3%となりました。

支出については、事業費支出が961百万円と期初予算（1,093百万円）比88.0%、管理費支出が125百万円と期初予算（132百万円）比94.0%となり、事業活動支出合計は1,086百万円と期初予算（1,225百万円）比88.6%に止まり、例年よりも少ない数字となりました。特に、事業費支出が予算比77.8%に止まった自然保護事業費については、職員退職に伴う空白期間が生じたことによる影響が大きかったといえます。以上の結果、事業活動収支差額は税引き後で、837百万円の収入超となりました。

### ■ 事業活動収入

収入合計 1,929百万円 期初予算比 161.3%

(主な収入項目)

個人会費	296百万円	期初予算比 102.4%
法人会費	48百万円	期初予算比 86.8%
個人寄付金	120百万円	期初予算比 110.4%
法人寄付金	125百万円	期初予算比 63.3%
募金収入	34百万円	期初予算比 50.9%
遺産寄付	1,112百万円	期初予算比 519.8%

### ■ 事業活動支出

支出合計 1,086百万円 期初予算比 88.6%

事業費支出 961百万円 期初予算比 88.0%

管理費支出 125百万円 期初予算比 94.0%